



前号に続いて、各クラスで書かれた「文化祭を振り返って」の作文を紹介します。

「文化祭」

体育館へ入る。審査員席へ座った。部活の朝練で組み立てたアルミ台がより本番だと意識させる。曲の紹介ムービーを見た。すっかり覚えた1組の合唱曲「今を生きる」。歌詞がとてめにかっこいい曲だと思っている。

4組の合唱が始まった。空気が変わったことを感じる。色んなパートを目と耳で追いながら評価をつけるための番号をふった。勝ちたい。今までの努力を裏切られたくない。そんな思いで聴いていた。

私達1年1組は練習態度があまりよくなかった。何度もしかれた。それでも、私は高音と低音を支えて歌うアルトパートが好きだったから、一生懸命練習した。アルトはみんな全力で音程をとっていた。でも、3パート合わせるといつもふざけるなとしかられる。そんな毎日だった。

私達の番がやってくる。指揮者が手をあげる。何十回と聴いた伴奏が流れる。息を吸って歌い出した。体育館にいる全員が見ている中、曲はどんどん進んで行く。サビ前の盛り上がり。3パートの重なり合う中盤。そして、最後の最後、題名である「今を生きる」の歌詞で終わる最大の魅せ場。

あっという間に終わってしまった合唱。午後、結果発表で1年1組は何も受賞できなかった。それでもステージで歌うことは楽しかった。結果はどうであっても、私の中ではこの日の歌が一番だった。クラスの皆も同じだったらいいな、と思う。

（1組 女子）

「今を生きる」

君の瞳は輝いている 何かを見つめて輝いている 強い心折れない心 私も輝きたい
君は私のあこがれ 今 輝くチャンス 今 夢を求め 人は軸があればぶれない
その心は私を強くする 輝くために今を生きる 夢を求め今を生きる

これが僕たちの合唱コンクールの曲の歌詞だ。これを歌い終えた僕は今を生きているのか。まあ、話の全ぼうを語っていこう。

6時間目の終わりのチャイムと同時に、僕たちの練習はスタートする。「さあ頑張るぞ」心を合わせ、皆で気持ちよく歌おうとした。でも、上手くいけない。ふざける人がいるのだ。一生懸命やろうとしている人が皆、かわいそうだ。それは最後の最後まで続くのであった。

練習するたびに息が合っていく。毎回の練習、声がガラガラになってもいい。「皆でちゃんとした今

を生きたい。」いつもそう思っていた。椋尾先生からアドバイスをもらい、その通りに歌うときれいに聞こえた。だんだん、合唱の日が近づいていった……。

そんな中でも、いつまでもふざける人達がいた。先生からの注意が入っても、先生がちょっと違う方向を向いている時、言うことを聞かない。皆どんだんうまくなっているのに……この人達どうするんだろう。逆にふざけているのって恥ずかしくないのかな、って思った。

迎えた本番。近づいてくる自分達の番。「よしやってやるぞ」。皆、緊張しているのか、全然声が出なかった。緊張のあまり、ふざけていた人もちゃんとしてくれていた。そのおかげで、初めて僕たちの本当の実力が見せられたコンクールだった。

これを歌い終えた僕たち。そう、本当の自分達。本当の今を生きた僕たちは賞をとることはできなかった。いい終わり方だったのにーと思うけど、やはり練習をちゃんとしていないのに本番だけうまくいくなんてことはないのかもしれない。

（1組 男子）

「中学初の文化祭」

中学生になって初めての文化祭。僕は何をするのかわからなかった。それが、音楽の授業で合唱コンクールをすると初めて知った。歌うのは「生きている証」。この歌は1学期から歌ってきたから、歌詞はちょっと覚えていたけれど、リズムや音程は覚えていなかった。ハモりも多いから余計に難しく感じた。最初は男女で分かれて楽譜を見ながら、歌っていたけれど、だんだん楽譜を見ずにやっていくのが多くなり自然と歌詞は覚えていた。けれど、問題は音程とリズムだった。

10月に入り、本格的に合唱練習が始まり、6時間目が終わると放課後練習をした。パートリーダーや指揮者を中心に練習をした。テナーのパートは僕も含めてふざける人が多く、なかなかまとまらない。そんな中、先輩の合唱をきいた。その日からなぜかちょっとやる気が出てきた。

そして、当日、朝練を終えてあとはやるだけ、と思った。2組は1年の中の最後で、緊張してぼくは体が自然とふるえていた。途中でピアノがとまるアクシデントは終わったけれど、クラスがまとまって励ましていたからよかったと思った。個人的には金賞をとりたかったけれど、みんなで協力してとった銀賞だったからそれはそれでよかったと思った。来年、さらに成長した姿を見せられるように頑張りたい。

（2組 男子）

「合唱コンクールおしくも銀賞……」

私は小学校の時から中学生になったら合唱コンクールがあり、クラスごとに競い合えるというふうにコンクールをすごく楽しみにしていました。そして、9月末ぐらいからもうすぐ文化祭、もうすぐ合唱コンクールとすごく楽しみにしていました。

いよいよ練習が始まりました。正直1日目の練習の時は、音楽の授業と違い皆の声が小さく、このままだったら賞はとれない……と思っていました。練習の最後に先生が話をしてくださったおかげで2日目からは皆声を出すようになりました。日に日に良くなっていきました。でも、パートの中で考えが違い、少しもめたりもしました。けれど、その言ってくれた言葉のおかげで女子は集中して練習できたと思います。だれかが「生きている証」のどこかの部分を歌い出したら歌うようになっていき、意見がぶつかることはあっても、クラスの団結力は増していきました。

文化祭当日。私は朝から友人と黒板アートのようなものをしました。最後に先生が書いてくれた言葉ですごくやる気が増しました。ありがとうございました。朝の練習の初めは皆あまり声が出ず不安でした。でも、教室にもどってからはすごく良い歌になっていました。これはいける！と思った合唱コンクール。結果は惜しくも銀賞でした。でも、私の中では最初から最後まで皆声が出てすごく良い歌で、今までで最高の歌だったと思っています。

（2組 女子）

「本番」

10月19日に2学期の2つ目の大きな行事、文化祭がありました。初めての合唱コンクールということもあり、とても楽しみにしていました。また、不安という言葉もありました。まちがえないかな、上手に歌えるかな、という不安もありました。そんな中、1人の子がとても緊張していました。自分と同じように不安で、緊張すると言っていました。私はがんばれ、失敗しても大丈夫、とすることができました。その子のおかげで、私は皆同じようなことを考えているんだ、自分もがんばらないと思いませんでした。

本番、練習以上に声を出して歌うことができました。テナーとアルトの声に合わせられました。私は結果より、皆で頑張って一生懸命練習してこられたことがとてもよかったな、と思います。また、先輩方の合唱を聴くと、もっとがんばらないといけないと思うこともたくさんありました。その反省点を、来年活かすことができたと思います。来年も思い出に残る合唱コンクールにしたいな、と思いました。

（3組 女子）

「初めての合唱コンクール」

「COSMOS って花かな？」

初めて曲名を聞いた時、僕はそう思った。歌詞を見たら、宇宙ということがわかった。とてもいい曲でがんばろうとやる気が出た。授業では、変なところを椋尾先生が直してくれました。放課後練習では、クラスでダメなところを指摘し合いました。

そして、文化祭の日、ワクワクしながら登校しました。最後の練習では、とても緊張していました。この練習が終われば本番だからです。

ついに本番。最初に1年生の部で4組、1組が歌い終わり、3組の番です。ステージに立つと、たくさんの方がいて、足が震えました。緊張でいつもより声が小さかったけれど、3組らしく歌うことができました。「午後の結果楽しみだな」と思いました。2、3年生の合唱はとてもきれいで、響くような声で感動しました。

午後の結果発表。まず、銀賞は2組。金賞は4組。

「あー」

とても悔しかった。頑張って練習したが、金賞じゃなかったのが残念だった。2年生になったら、クラスは変わるけれど、金賞がとれるよう、積極的にどんどん協力していきたいです。

（3組 男子）

「文化祭」

「金賞」という言葉を決めて頑張ってきた1年4組。私はソプラノのパートリーダーをしました。放課後練習では、音楽を流し、もう少し頑張ることをソプラノの人に伝えることを意識して合唱をしてきました。正直に言えば、毎日毎日、真剣に合唱はできませんでした。それは歌うときに目が合うとわらったり、皆をうまくまとめられなかったりしたからです。

先生から最後の歌詞を誰に届けたいの？と問いかけられた時、頭に浮かんだのは「家族」でした。それを思った時、その日のパート練習はがらっと変わりました。私はパートリーダーとしての責任、皆をまとめるという意識が強くなりました。

最後の放課後練習では、皆が絶対金賞をとる！という真剣な顔をしていました。その合唱では椋尾先生に注意されたこと、三木先生に言われたこと全てが完璧にできていたと思いました。リハーサルでは声が出ず、不安な部分もありました。ですが、笑顔で合唱をして、3UPすることを忘れてはいませんでした。学年の先生方に「2DOWN しているよ」と言われたからです。絶対に3UP しないといけな

いと思いました。

本番。なぜか緊張はしませんでした。歌っている時は何も感じませんでした。結果発表で、金賞は4組。とってもうれしかった。今度は1年代表としていたみホールへ行きます。そこでたくさんの方々にすごいと思ってもらえるように、みそあじを守り、いい合唱をして帰ってこられたらと思います。

（4組 女子）

「合唱コンクール」

僕は最初、合唱コンクールなんて開催しても意味が絶対はないと思っていました。なぜなら、ただ歌うだけで、もし1位になれば、いたみホールへ行って歌うだけだからです。めんどくさいし、しょうもな、って思っていました。

そして、合唱コンクールの練習が始まりました。最初はおもしろくなかったけれど、そのうちにほんの少し10分の1のおもしろさが出てきました。

いよいよ、当日になりました。三木先生が言っていたのは、「歌詞の意味を考えて歌え」です。この意味は、自分が歌詞を考えて歌い、お客さんに何を伝えたいのかという意味です。僕は、お父さんとお母さんに「ありがとう」という意味を込めて歌おうとしました。けれど、残念ながら当日は2人とも来られませんでした。でも、気持ちを込めて歌いました。

他のクラスの合唱も、どの曲もとてもいい曲で、歌声がよかったです。中でも3年生は団結力が強いと思いました。なぜなら、声がしっかり重なって聞こえたからです。特に男子の声が低く、すごかったです。

いよいよ結果発表。1年生の部で、金賞は僕ら1ー4でした。選ばれた時は、かなり嬉しかったです。いたみホールで歌うことになったので、がんばりたいと思います。

（4組 男子）